
柚子の薰り

yatennyue

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

柚子の薫り

【ZPDF】

Z0419Z

【作者名】

yatenyue

【あらすじ】

学園から戻らない、妹蜜柑を心配して訪れるのは双子の兄の柚だつた。

蜜柑同様妹に対する態度は、まああれだが、妹を溺愛する彼が何を引き起こすのか？

プロローグ 愤りの雪

「つ柚、柚やあ～」

ドタバタと騒がしい音とともにがたつと襖が開かれる

「…ふあ…まだ遅刻する時間じゃないよ。

じいちゃん

蜜柑起にしてたんじやなかつたの?」

眠たそりに話す少年・柚。

「蜜柑が・みかんが、

わしのへそくりもつて出でこまおつた・・・

そして差し出す妹の手紙

それを読んだ瞬間 グシャッと少年いや袖は握りしめた。

そして、

「やつてくれたな あのバカ娘（黒）

じーちゃん 悪いけど俺も行くよ

あのバカ娘だけじゃ不安だし

これでも、兄だからね。

しつかりまもってやんよ（あーあー。せつかく畠に言われて黙つてたのに

見つかりにくくアリスだからって）

ちゃんと、取り次ぎもしなかつた妹と違い、

近所や学校へのあいさつ、手続きをし、旅立つのだつた。

（じーちゃんが手紙を渡そうとしたけど、書くの遅いしつになる
かわからないし

つてことでやつたと旅立つたのであつた）

「さて・・・

どうやって入れてもらうかな?

門を壊してもいいけど、後々教師がうるさいしね

妹とは違う頭が回ったこと考える少年が1人。

アリス学園前で立っていた。

門に必要以上に近づかないため門番たちも扱いかねていいようだ。

「何をしている?」

そこにきたのは不審者の通報で見回りをしていた神野先生であった。

「はい? ?

神野先生の方をむく袖。

「貴様は行けいや違うな。

お前名前は？」

「（ニッコリ）

知らない人に話す名前はありません

－－－といいたいところですが、こいつら辺を漁る詐欺師のように
見えませんし

：

もしかして、□□の教師ですか？」

「・・あ ああ」

あの人 にそつくりの顔で理論的な話しがでたので困惑したよう
だ。

「はじめまして、佐倉 柚です。

妹がお世話になっています。

すいません 馬鹿で」

あの人 とは違う思慮深さ

それはなんだかんだいって あの人と気に入り

その視を悔やんだーー 神野先生が

あの人に 持つていてほしかつた一面であった・・・・・・

しかしその瞳は あの人同様輝いていた。

亡き父同様に・・・・・

だが、それとこれとは別だ。

「何の用だ。

妹には会えんぞ」

「…笛から聞いて隠していましたけど、

僕もアリスです。

本当は隠し続けるつもりでした。

けど、妹はやつぱり守らなことでしょう。」

まやしく父と母の一家族の夢を体現したような兄弟愛だった。

「…（運命は止められぬ…か）

お前の持つているところアリスは？」

「テレポート瞬間移動と、妹ミカンと同じ無効化、

そして、鍊金術です。」

テレポート以外珍しいアリス

間違いなく、少年の先は妹と同じく波乱に満ちているだろう

プロローグ 愤りの叫び（後書き）

懲りずにまたかですが、始まりました

彼は、言つながら頭がいい版の泉水です。

更新は激遅ですが、気長に待ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0419z/>

柚子の薰り

2011年12月1日18時52分発行